



長野県駒ヶ根・宮田大会の開催にあたって

長野県の南部に位置する駒ヶ根市と宮田村は、中央アルプスと南アルプスに囲まれた伊那谷のちょうど中間地点にあり、標高が高いことから、夏は比較的冷涼であることはもちろん、太平洋側の気候の影響を受けることから、雪深いイメージのある長野県の中でも冬季の降雪量は少なく、晴天率にも恵まれ、空気は澄み渡り、大変住みやすい地域であります。

昭和42年には、中央アルプスに日本初となる高山に架けられた山岳ロープウェイが運行を開始し、しらび平駅（宮田村）から標高2,612mの千畳敷駅（駒ヶ根市）まで、高低差950mを7分30秒で一気に登ることができ、雲上の世界を気軽に楽しむことから、毎年数多くの観光客に訪れていただいております。

また、千畳敷駅の眼前に広がる千畳敷カールは、最終氷期に形成されたとされる氷河地形で、国の天然記念物に指定されており、夏はコバイケイソウ、シナノキンバイ、チングルマなど、多くの高山植物が咲き乱れるお花畑、秋はダケカンバやナナカマドなどで紅や黄色に色づいた東洋でも随一と呼ばれる紅葉の絶景を楽しむことができます。

このような自然に恵まれた中央アルプスにも、かつてはライチョウが生息していましたが、今から半世紀ほど前に絶滅したとされていきました。ところが平成30年7月に、登山者により雌1羽が確認されました。

これをきっかけに令和2年度から、環境省を中心に、中央アルプスにライチョウを復活させる事業が本格的に開始されました。現地でのケージによる保護や、動物園に移送して飼育し、再び自然に戻すなど、多くの皆様のご協力のおかげで、今年の夏には百羽を超える個体が生息していると言われるまでになりました。

こうしたご縁や、中央アルプスが国定公園化されたことも併せ、この度、20回の節目となるライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会を開催する運びとなりました。

本大会では、ライチョウを通して、大人はもちろんのこと、次代を担う若い世代、特に子ども達に、自然環境の大切さや、地球温暖化によって生物が受ける影響などを学んでいただけたらと思っています。この大会を通して、地元の皆さんの地域愛が深まることはもちろん、県内外からお越しになった皆さんにもこの地を知っていただき、地域振興に繋がっていくことを期待しております。

令和4年10月9日

第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会

大会長 駒ヶ根市長 伊藤 祐三

大会風景



開式



大会長挨拶 (伊藤駒ヶ根市長)



実行委員長挨拶 (中村 浩志)



記念講演 (環境省:小林 篤)



記念講演 (伊藤宮田村教育委員)



記念講演 (環境省: 小林 篤)



質問タイム



閉会挨拶 (小田切宮田村村長)

